

**住民シンポジウムアンケート調査結果**

平成 28 年 12 月 11 日に開催した住民シンポジウムでは、64 人の参加者があり、47 人からアンケート調査票を回収することができた。その結果は下記のとおりである。

<b>調査結果の概要</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・回答者は、男性が 8 割を占めた。</li> <li>・回答者の年齢は 50 歳代が約 4 割、60 歳代が約 2 割とシニア層の割合が高かった。</li> <li>・回答者の居住地は、約 9 割が聖籠町であった。</li> <li>・「生涯活躍のまち」に関する理解度は、「理解できた」が約 4 割、「どちらかと言えば理解できた」が約 6 割であった。</li> <li>・「生涯活躍のまち」の有益度は、「どちらかと言えば有益である」が約 4 割、「有益である」が約 2 割と肯定的回答が 6 割を占めた。</li> <li>・「シンポジウム参加による生涯活躍のまちの捉え方の変化」は、「どちらかと言えば変わった」が約 4 割、「変わった」が約 2 割と変わったとの回答が 6 割を占めた。</li> <li>・シンポジウムを最初に知った情報媒体は「チラシ」が約 7 割を占めた。</li> </ul>

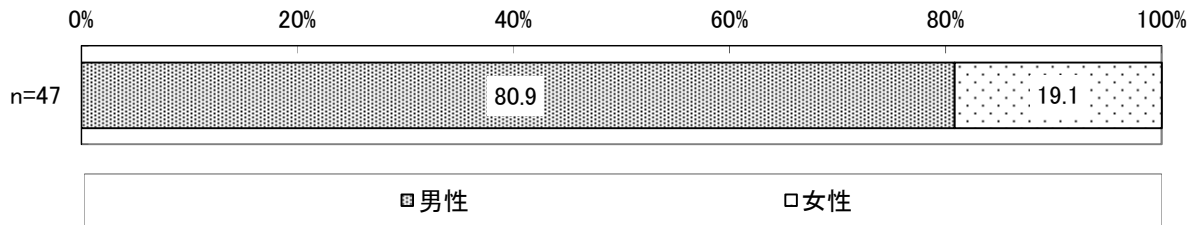
また、年齢、有益度、捉え方の変化によるクロス集計を実施した。回答者の区分は下表のとおりである。

問 2 「年齢」によるクロス集計		
「現役世代」	(n=29)	20 歳代から 50 歳代
「リタイア世代」	(n=17)	60 歳代以上
問 5 「有益度」によるクロス集計		
「有益である」	(n=29)	「生涯活躍のまち」は本町にとって有益である 「生涯活躍のまち」は本町にとってどちらかと言えば有益である
「有益ではない」	(n=15)	「生涯活躍のまち」は本町にとってどちらかと言えば有益ではない 「生涯活躍のまち」は本町にとって有益ではない
問 6 「シンポジウム参加による捉え方の変化」によるクロス集計		
「変わった人」	(n=30)	「生涯活躍のまち」の捉え方が変わった 「生涯活躍のまち」の捉え方はどちらかと言えば捉え方が変わった
「変わらない人」	(n=12)	「生涯活躍のまち」の捉え方はどちらかと言えば変わらなかった 「生涯活躍のまち」の捉え方は変わらなかった

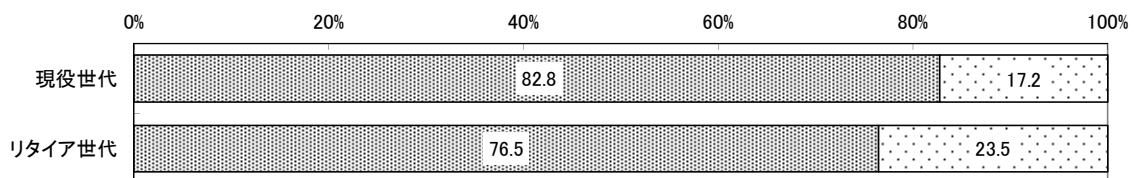
## 問1 性別

回答者の性別は、男性が8割を占めた。クロス集計もほぼ類似した回答であったが、「リタイア世代」では女性の割合が男性に比べて高かった。

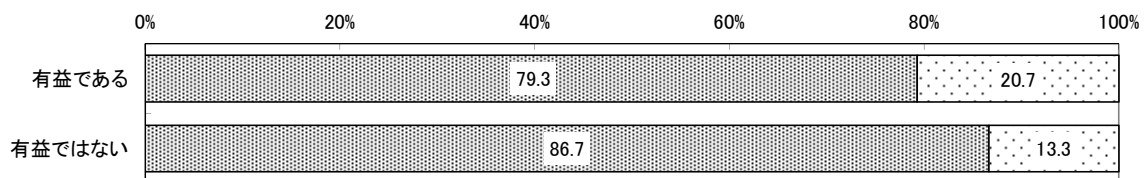
### 【単純集計】



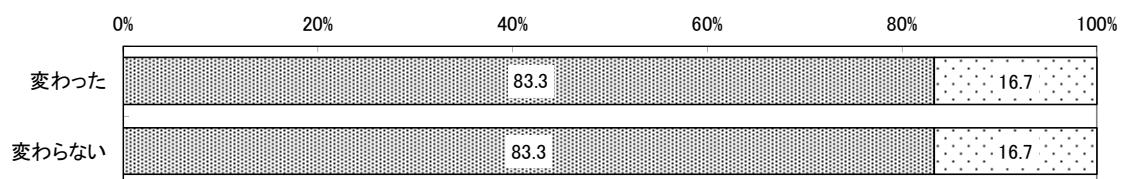
### 【「年齢」によるクロス集計】



### 【「有益度」によるクロス集計】



### 【「シンポジウム参加による捉え方の変化」によるクロス集計】

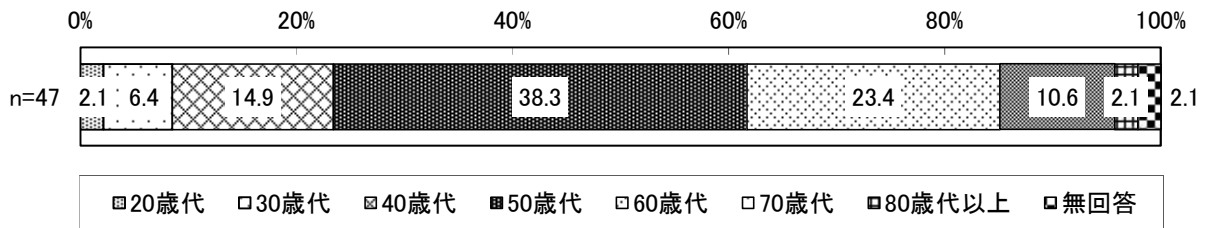


## 問2 年齢

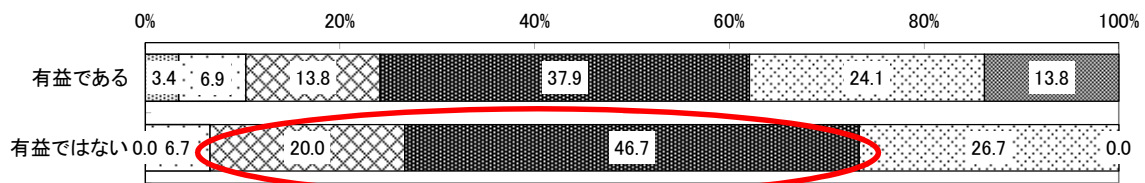
回答者の年齢は、50歳代が38.3%と最も多く、次いで60歳代の23.4%であった。シニア層の割合が高かった。

「有益ではない」との回答者は、「有益である」との回答者に比べて40歳代、50歳代の割合が高く、「変わらない」との回答者は、「変わった」との回答者に比べて60歳代の割合が高かった。

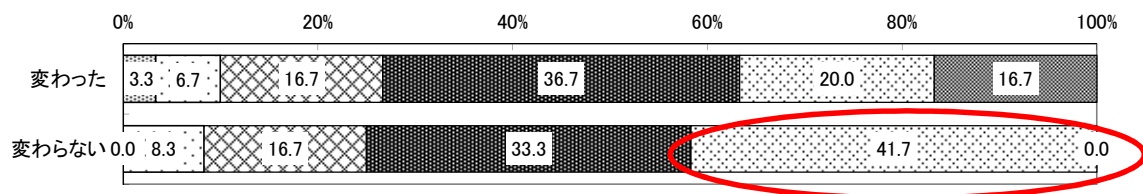
### 【単純集計】



### 【「有益度」によるクロス集計】



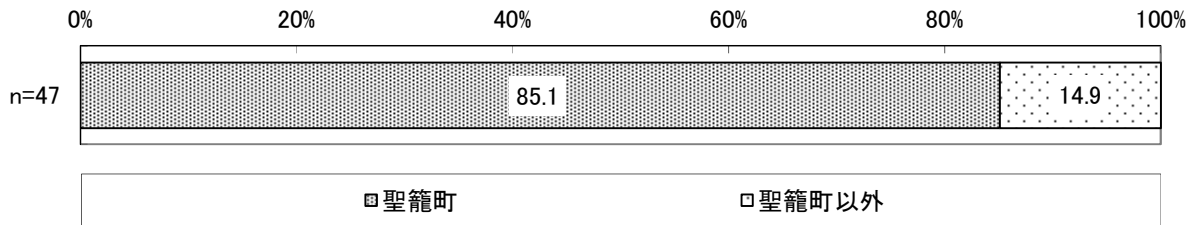
### 【「シンポジウム参加による捉え方の変化」によるクロス集計】



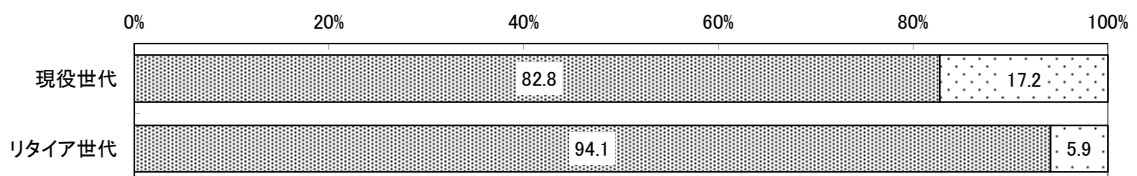
### 問3 居住地

回答者の居住地は、約9割が聖籠町であった。「有益である」との回答者は、「有益ではない」との回答者に比べて、聖籠町の割合が高かった。

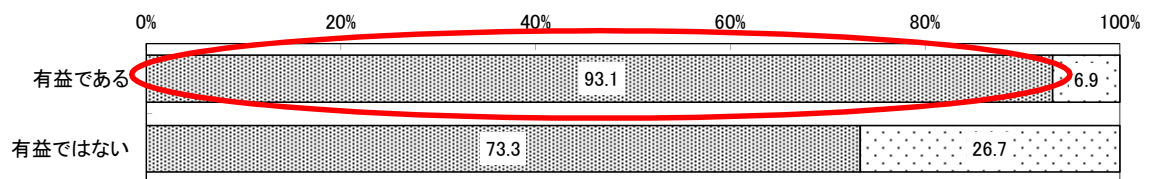
#### 【単純集計】



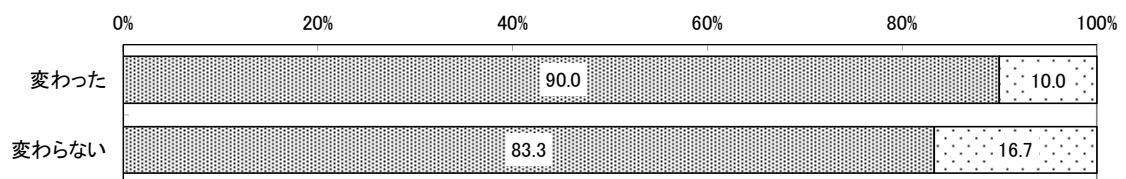
#### 【「年齢」によるクロス集計】



#### 【「有益度」によるクロス集計】



#### 【「シンポジウム参加による捉え方の変化」によるクロス集計】

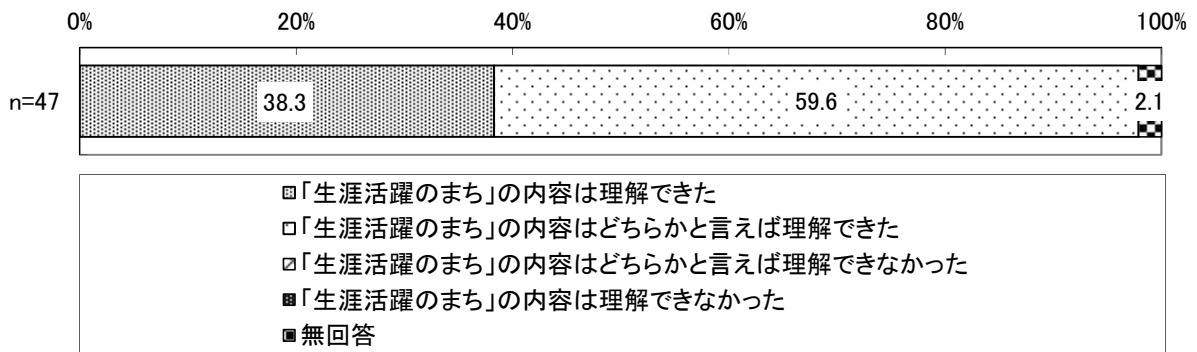


#### 問4 「生涯活躍のまち」の理解度

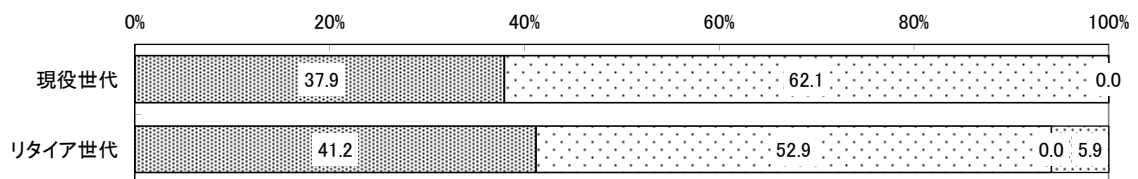
回答者の「生涯活躍のまち」に関する理解度は、「理解できた」が約4割であった。「どちらかと言えば理解できた」を合せると、ほぼ全ての出席者が理解できたと、肯定的な回答が得られた。

「有益である」との回答者は、「理解できた」が5割を超え、「有益ではない」との回答者との違いが見られた。また、「変わった」との回答者も「理解できた」が5割であった。

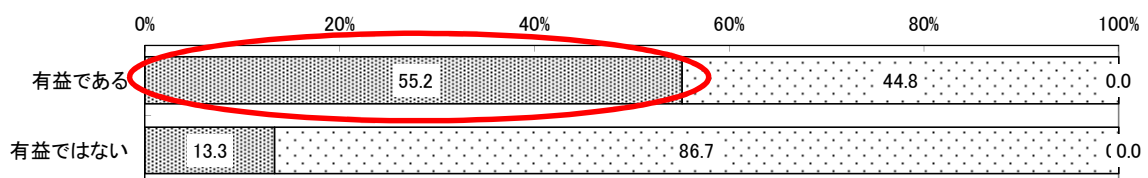
##### 【単純集計】



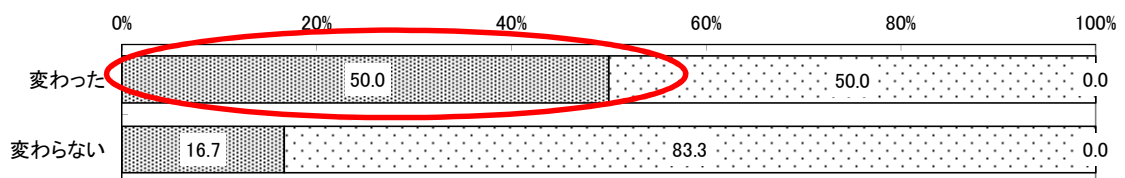
##### 【「年齢」によるクロス集計】



##### 【「有益度」によるクロス集計】



##### 【「シンポジウム参加による捉え方の変化」によるクロス集計】

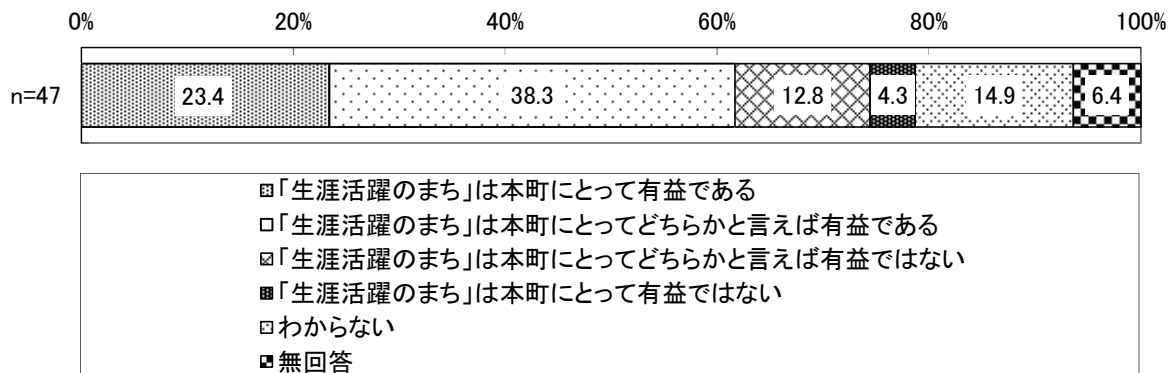


## 問5 「生涯活躍のまち」の有益度

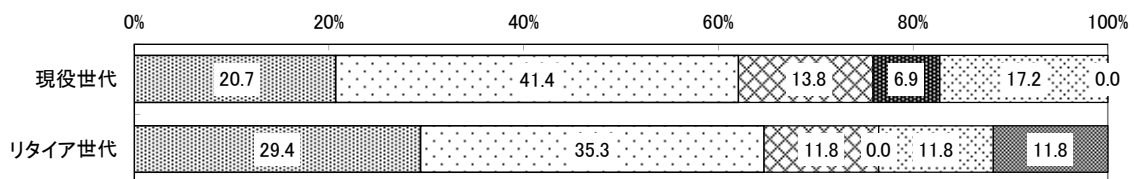
「生涯活躍のまち」の本町への有益度は、「どちらかと言えば有益である」が 38.3%、次いで「有益である」が 23.4%であった。6割が肯定的回答であり、否定的回答を上回った。

「変わった」との回答者は、有益度に肯定的な回答が約8割であった。一方、「変わらない」との回答者は、有益度に否定的な回答が約6割であり、両者で相違が見られた。

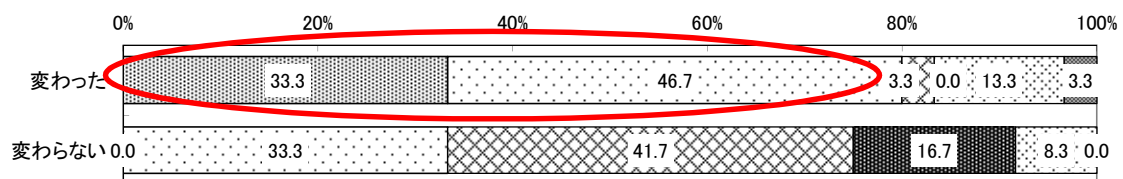
### 【単純集計】



### 【「年齢」によるクロス集計】



### 【「シンポジウム参加による捉え方の変化」によるクロス集計】

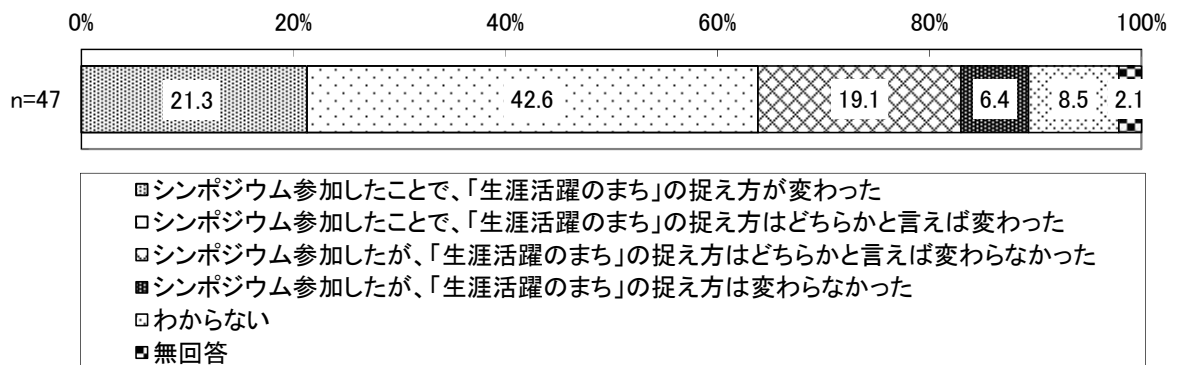


## 問6 シンポジウム参加による捉え方の変化

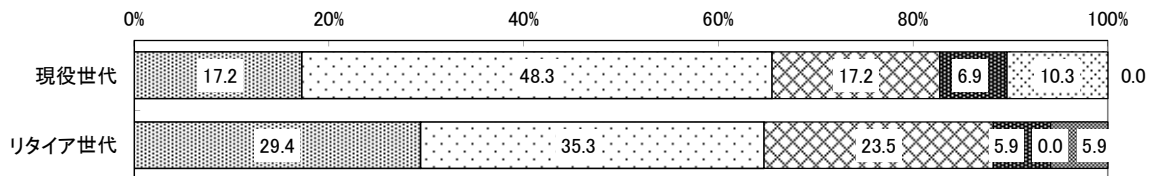
シンポジウム参加によって、「生涯活躍のまち」の捉え方の変化を尋ねたところ、「どちらかと言えば変わった」が42.6%、次いで「変わった」が21.3%であった。6割の回答者が、シンポジウム参加により捉え方が変わっており、シンポジウム開催は意味があったことがうかがえる。

「有益である」との回答者は、捉え方が変わったことに肯定的な回答が約8割を占めた。一方、「有益ではない」との回答者は、捉え方が変わったことに否定的な回答が約5割を占め、両者で相違が見られた。

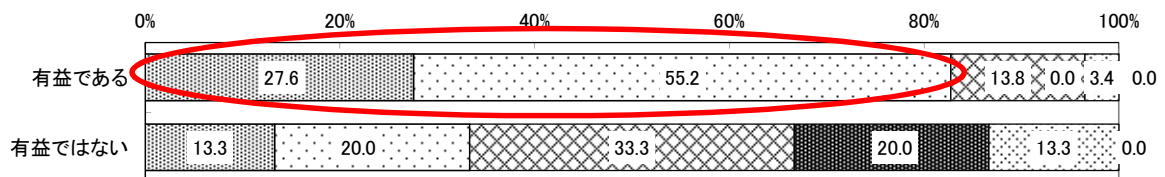
### 【単純集計】



### 【「年齢」によるクロス集計】



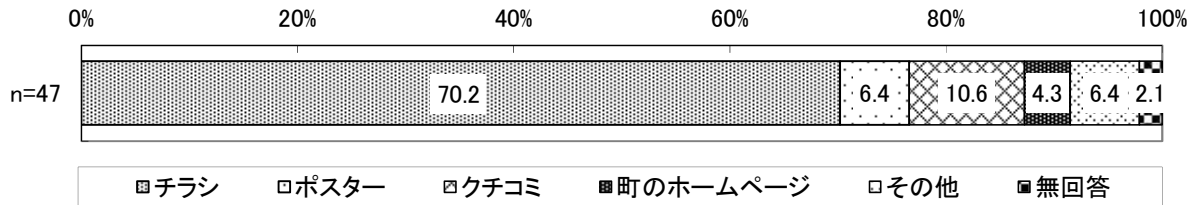
### 【「有益度」によるクロス集計】



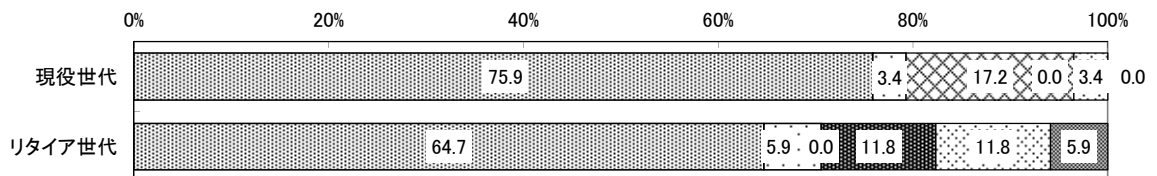
## 問7 情報媒体

シンポジウムを最初に知った情報媒体は、「チラシ」が7割を占めた。「現役世代」は、「チラシ」が7割を超え、次いで「クチコミ」の割合が高かった。一方、「リタイア世代」は、「チラシ」が7割を下回り、次いで「町のホームページ」の割合が高かった。

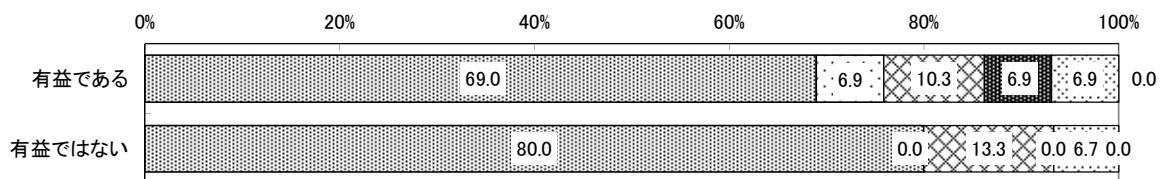
### 【単純集計】



### 【「年齢」によるクロス集計】



### 【「有益度」によるクロス集計】



### 【「シンポジウム参加による捉え方の変化」によるクロス集計】

